神奈川県
藤沢市

ニッポンの水族館

新江ノ島水族館

日本の世界観を発信

長い歴史を持ちながら、この新水族館時代の中で、もっとも遅くリニューアルをしたのが田江の島水族館だった。しかし予想に反して、巨大水族館の流れには乗っていない。2004年春にお目見えしたのはコンパクトでキュートな水族館。しかもどこかしら不思議な感覚。実は新江ノ島水族館には展示テーマのほかに、展示理念がある。それは"ニッポンの水族館"と"メディア型水族館"。つまり、科学系博物館から文系水族館になったのだ。いや、ますますワケが分からなくなりそうなので、展示を見て実感していただきたい。

深い海や川の淵に、水中眼鏡をつけて潜ったことはあるだろうか？　恐怖感にゾクッとする。なんといえばいいか、海なら磯女、川なら河童でも潜んでいて手を引っ張りにきそうな怖さ。底知れぬ自然に対する畏れが、物の怪を想像してしまうのだ。

何者かが潜んでいそう

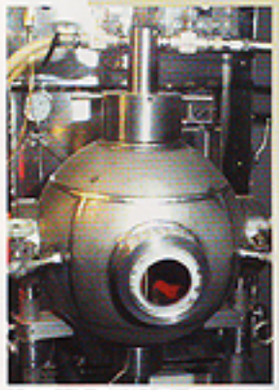
新江ノ島水族館では、それと同じ感覚を味わうことができる。水槽内を見えにくくしているかのように張り出た岩、深い青色に着色された暗めの水槽、スポットで光を落とす照明。そして、いくつも組み込まれた造波装置による水の揺れ。それらは、ただ展示動物を見るのではなく、自然環境がつくりだす尊くて不可思議なものまでもを見せてくれるのだ。

メインの水槽「相模湾大水槽」に、怒濤のように打ち寄せる波に驚いた後、波間から覗く底知れぬ海底を見れば、きっと引き込まれるような気分になる。海藻がゆらゆらと揺れる水槽の前に立っていると、海藻の向こうから何者かがこちらをうかがっているような気分になるはずだ。

それが本来のニッポンの心、自然界の万物にはすべて精霊が宿っているという、アニミズムの思想だ。先住民にみられるアニミズム思想は、今や世界の環境識者の主流となりつつある。新江ノ島水族館は、それを日本から広めた

←キサンゴの海を泳ぐハナハゼ。こんな風景が相模の海にある。南の海とは違う幻想的な色彩に引き込まれそうになる

深海コーナーは、海洋研究開発機構との共同研究により展示されているので、次々と新しい生物が登場する。ここは、地球から噴出する化学物質で生きる生物の展示では日本一



↑高圧水槽。深海潜水艇に取り付けて、生物を捕獲した深さの圧力を保ったまま、ここに展示することができる

←サガミハオリムシと周囲にハオリムシやシンカイヒバリガイの群集。850～1150mの深海で採集。地球から吹き出す化学物質を食べている生物たち

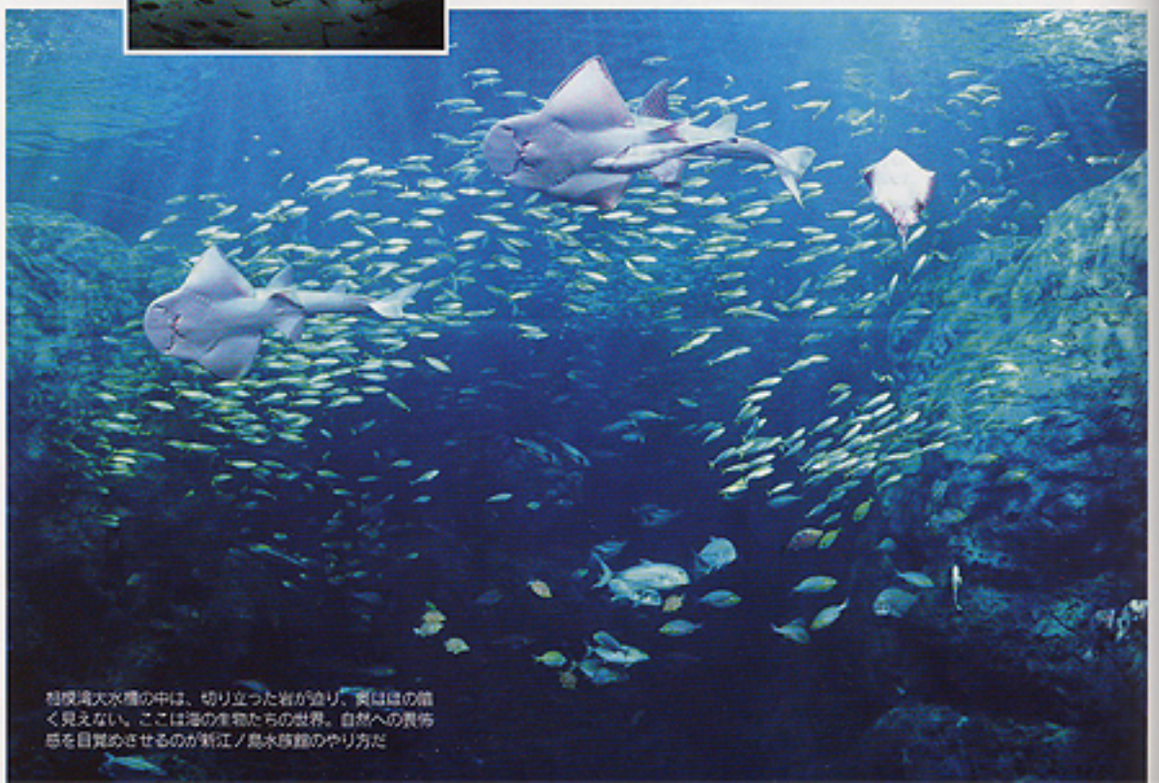
↑ユノハナガニ。深海に吹き出す温泉に集まって生活する、眼のないカニ

↑不思議な生物、オオグチボヤ。きわめて珍しい

←ゆらゆらと揺れるアラメに、海全体が生き物のような錯覚を覚える。水槽の奥から何物かがこちらをうかがっている感覚だ

↑エントランスを入ると海鳴りとともに波が打ち寄せられる。そっくり再現された江ノ島の海岸から相模の海へ誘う

→雲のように変化するイワシの大群。1個の生命のように見える



相模湾大水槽の中は、切り立った岩が迫り、奥はほの暗く見えない。ここは海の生物たちの世界。自然への畏怖感を目覚めさせるのが新江ノ島水族館のやり方だ

いのだ。

水族館が媒体

食卓に乗る生物たちを紹介するコーナーの解説には、なぜ食べ物に「いただきます」というかが書かれている。水族館に来て、魚類の分類だとか、生態だとかを研究しようなんて人はまずいない。だったら、自然科学にこだわるよりも人文系博物館として、これからの時代に必要なメッセージを伝えようとしているワケだ。

特筆すべきは深海コーナーだ。ここでは、潜水調査船「しんかい6500」などを持つ海洋研究開発機構との共同研究と、水族館初の深海高圧環境水槽によって、常に最新の深海生物展示を行っている。水族館の資産だけでなく、さまざまな研究者や活動者の成果を、水族館を媒体にして社会に伝える。それが〝メディア型水族館〟の形だ。

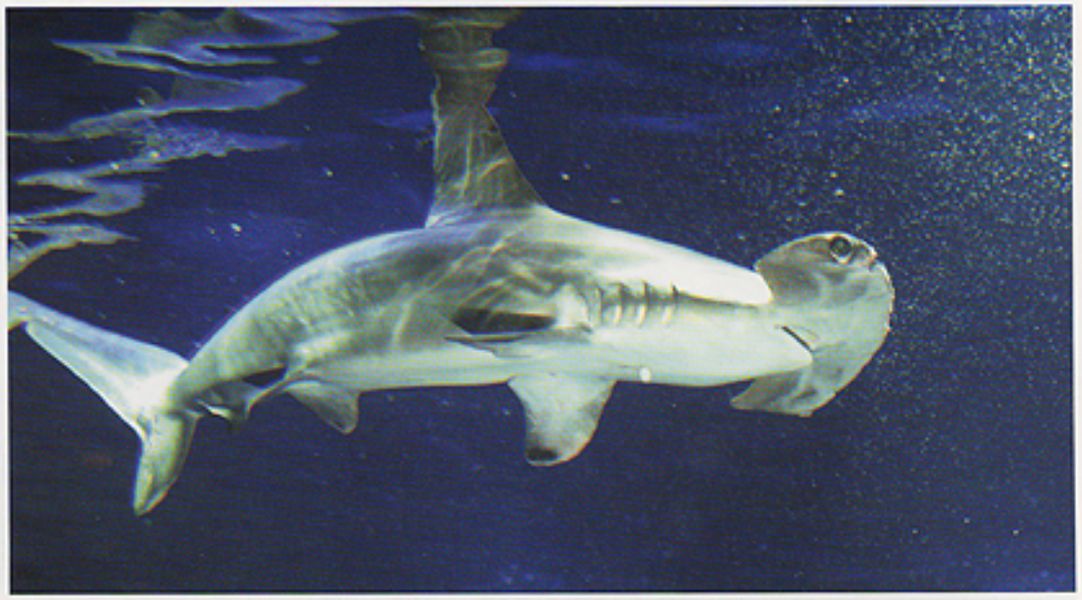
←話題のエチゼンクラゲ

クラゲファンタジーホールは、クラゲだけのゾーン。旧江の島水族館は日本で初めてクラゲの展示を始めた水族館

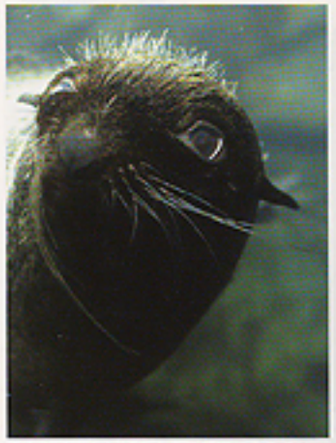
↑癒し系ブルージェリーフィッシュ

↑猛毒のシーネットル

↑可憐なギヤマンクラゲ



↑ちょっと不気味なアカシュモクザメ



↑キタオットセイを水中で観察できるのは、新江ノ島水族館だけ。よそで見かけるミナミオットセイやアシカとは顔つきが違う

↑イルカ・クジラショーの先駆け。プールに対してイルカが多いので大迫力

PICK UP

発見の小窓

2006年にできた小さな水槽のコーナー。普段見落としている小さな命の美しさや生き様を、期間テーマに沿って展示。

生きたサンゴでサンゴ礁の海を再現。サンゴに見え隠れするサンゴ礁魚類を発見するのが楽しい

↑スミナガレハナダイ

↑ニセモチノウオ

↑ルリスズメダイ

TEL	0466-29-9960
住所	神奈川県藤沢市片瀬海岸2-19-1
URL	http://www.enosui.com/
開館時間	9時～17時（時期により変動あり。入館は閉館1時間前まで）
休館日	なし
入館料	大人（中学生以上）2000円、小人（小学生）1000円、幼児（3歳以上）600円
年間パスポート	大人（中学生以上）4000円、小人（小学生）2000円、幼児（3歳以上）1200円
交通	小田急線片瀬江ノ島駅から徒歩3分（または江ノ島電鉄江ノ島駅から徒歩10分）。車＝横浜新道戸塚料金所から国道1・467・134号線で約30分
駐車場	なし（周辺Pを利用）